

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成26年10月30日(2014.10.30)

【公開番号】特開2013-76042(P2013-76042A)

【公開日】平成25年4月25日(2013.4.25)

【年通号数】公開・登録公報2013-020

【出願番号】特願2011-218375(P2011-218375)

【国際特許分類】

C 08 G 63/193 (2006.01)

C 08 G 63/79 (2006.01)

C 08 L 67/03 (2006.01)

C 08 L 69/00 (2006.01)

【F I】

C 08 G 63/193

C 08 G 63/79

C 08 L 67/03

C 08 L 69/00

【手続補正書】

【提出日】平成26年9月11日(2014.9.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

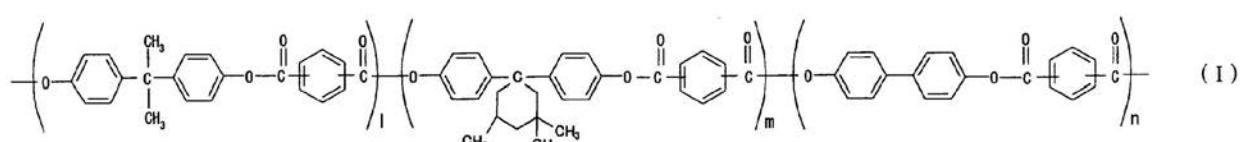
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

二価フェノール残基と芳香族ジカルボン酸残基とから構成され、下記式(I)で表されることを特徴とするポリアリレート樹脂(A)。

【化1】



[なお、式中、1、mおよびnは、1+m+n=100(モル%)であって、

1:n=50:50~70:30(モル比)かつ(1+n):m=75:25~40:60(モル比)をみたす]

【請求項2】

インヘレント粘度が0.50~1.00であることを特徴とする請求項1記載のポリアリレート樹脂(A)。

【請求項3】

請求項1または2に記載のポリアリレート樹脂(A)の製造方法であって、水相とジクロロメタン相の2相からなる界面重合法で重合されることを特徴とするポリアリレート樹脂(A)の製造方法。

【請求項4】

請求項1または2記載のポリアリレート樹脂(A)とポリカーボネート樹脂(B)とを、質量比で(A)/(B)=90/10~30/70で配合したものであることを特徴と

## するポリアリレート樹脂組成物。

## 【請求項 5】

請求項 4 に記載のポリアリレート樹脂組成物を成形してなる成形体。

## 【手続補正2】

### 【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

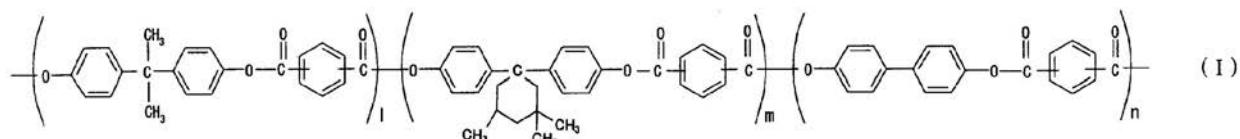
### 【補正方法】変更

### 【補正の内容】

〔 0 0 0 9 〕

(1) 二価フェノール残基と芳香族ジカルボン酸残基とから構成され、下記式(I)で表されることを特徴とするポリアリレート樹脂(A)。

〔化 1 〕



[ なお、式中、 $l$ 、 $m$  および  $n$  は、 $l + m + n = 100$  (モル%) であって、  
 $l : n = 50 : 50 \sim 70 : 30$  (モル比) かつ  $(l + n) : m = 75 : 25 \sim 40 : 60$  (モル比) をみたす ]

(2) インヘレント粘度が 0.50 ~ 1.00 であることを特徴とする(1)のポリアリレート樹脂(A)。

(3) (1) または (2) のポリアリレート樹脂 (A) の製造方法であって、水相とジクロロメタン相の2相からなる界面重合法で重合されることを特徴とするポリアリレート樹脂 (A) の製造方法。

(4)(1)または(2)のポリアリレート樹脂(A)とポリカーボネート樹脂(B)とを、質量比で(A)/(B)=90/10~30/70で配合したものであることを特徴とするポリアリレート樹脂組成物。

(5)(4)のポリアリレート樹脂組成物を成形してなる成形体。

### 【手続補正3】

### 【補正対象書類名】明細書

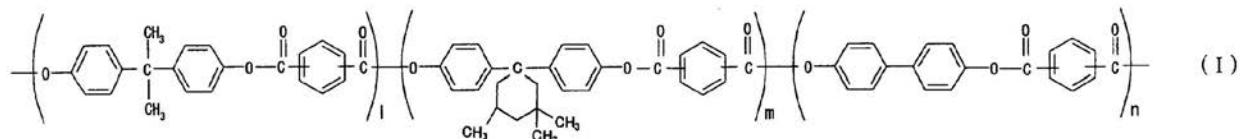
【補正対象項目名】 0 0 1 2

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

【化 2】



[ なお、式中、 $l$ 、 $m$  および  $n$  は、 $l + m + n = 100$  (モル%) であって、  
 $l : n = 50 : 50 \sim 70 : 30$  (モル比) かつ  $(l + n) : m = 75 : 25 \sim 40 : 60$  (モル比) をみたす ]

